

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、本年5月に6年生で実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、今後も、学校の教育計画や授業を改善し、さらなる学力向上に取り組んでまいります。

国語

全国の平均正答率より**相当低い結果**となりました。

①領域別の結果

話すこと・聞くこと

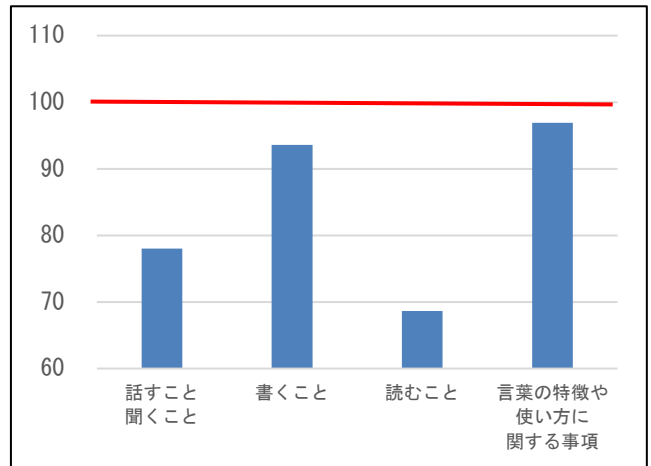
この領域の問題は3問で、どの問題も正答率は全国より相当低い結果でした。目的に応じた話し方についての思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかになりました。一方、無解答率は0%で、全国を下回り、粘り強く問題に取り組もうとする子どもが増えている状況が見られました。

書くこと

この領域の問題は2問で、どの問題も正答率は全国よりやや低い結果でした。目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する、思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかになりました。

読むこと

正答率 15.1%
無解答率 4.1%



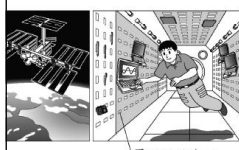
正答
メストラは、ゴボウの美が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくっつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)

(条件)
○ ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
○ 「資料」の中の文章と……の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 五十文字以上、八十文字以内にとめて書くこと。



相川さん

三 相川さんは、「資料」の……部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。



国際宇宙ステーションとその内部

短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの開発が求められてきました。誰かが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていききました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができる面ファスナーが通っていたからです。中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動くつでした。ひもくつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめくたいを調節することができ、サポートが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。

現在では水に強く、熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプレー、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。

面ファスナー

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったある登山に登ったジュールジュ・テ・メストラは、犬の毛に野生のゴボウの美が犬の毛にからみついていることに気がつきました。不思議に思い、その美を持ち帰って顕微鏡でくわく調べてみると、ゴボウの美は先の曲がったかぎ状のフックがくっついていくことがわかりました。そのフックが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作りました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をある布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、

はなれている状態
かぎ状のフックが輪の形になっているループ
くっついている状態

面ファスナーの仕組み

資料

この領域の問題は、3問で、どの問題も正答率は全国より相当低い結果でした。特に、上記の「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」問題では、全国の半分以下の正答率であり、課題があることが明らかになりました。

言葉の特徴や使い方に関する事項

この領域の問題は、5問で、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使う問題は、全国より相当低い結果でした。一方で、以下の「文の中における主語と述語との関係を捉える」「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」問題では、全国より「やや高い」「相当高い」結果となり、着実に言語に関する知識・技能を身に着けていることが明らかになりました。無回答率も、全国を下回り、粘り強く問題に取り組もうとする子どもが増えている状況が見られました。

(1)

次のオの文について、~~~~部「すぐに」はどの言葉をくわしくしていますか。適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

オ その他にも、遊び終わったら~~~~に遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。

1 遊び終わったら
2 遊具を
3 かたづける
4 むずかしい

正答 3

正答率 53.4%
無解答率 1.4%

(2)

丸山さんは、~~~~部イとオの文について、言葉の使い方を確認しています。

次のイの文について、~~~~部「残されています」の主語として適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

イ 時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに~~~~に残されています。

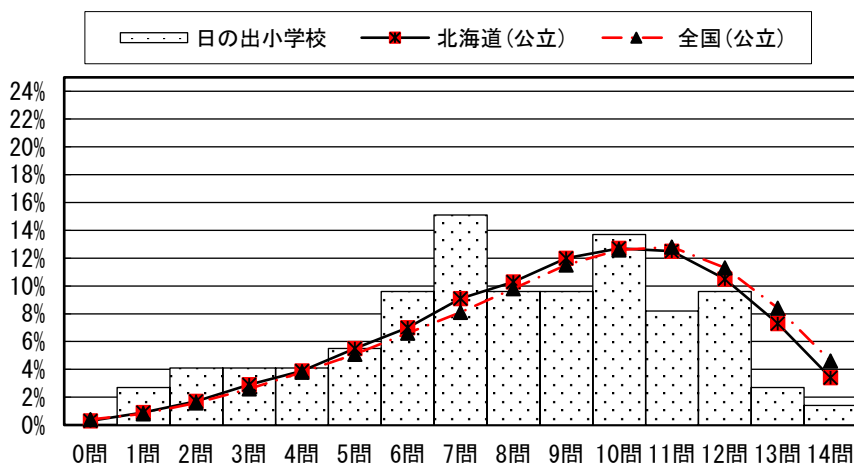
1 みんなが
2 使っていた
3 一輪車が
4 かたづけられずに

正答 3

正答率 71.2%
無解答率 1.4%

②正答数の分布

正答数が7問以下の児童の割合がどの正答数でも全国より高くなっています。一方、正答数が11問以上の児童の割合は、全国を下回っており、いわゆる下位層が多く上位層が少ない状況が見られます。



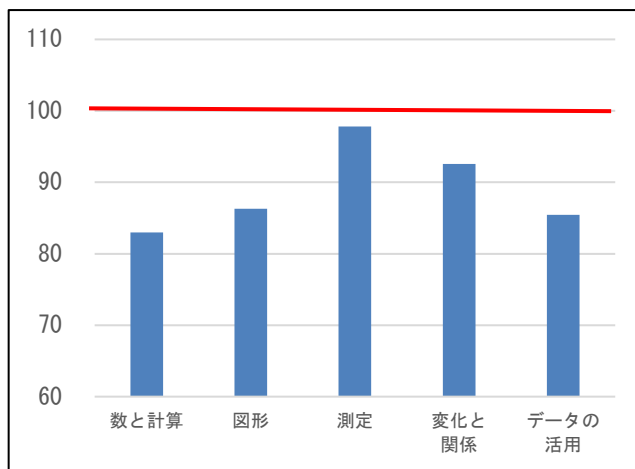
【今後の学校における指導】

- ◆本校児童の課題を意識した「授業づくり」
 - 「思考・判断・表現」の育成のために、言語活動、書く活動を重視した授業づくりを進めます。
- ◆「ほっかいどうチャレンジテスト」の積極的な活用
 - チャレンジテストの問題を朝学習や宿題等で活用し、苦手な領域の資質能力を育成します。
- ◆読書活動の充実による「読解力」の育成
 - 朝読書や「読書の日」を充実し、読書への意欲向上・習慣定着を通して、読む力を育成します。

①領域別の結果

数と計算

この領域の問題は4問で、どの問題も正答率は全国より相当低い結果でした。特に、下の問題の「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」問題では、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を適切に記述する、思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかになりました。一方、無回答率は、全国を下回り、粘り強く問題に取り組もうとする子どもが増えている状況が見られました。

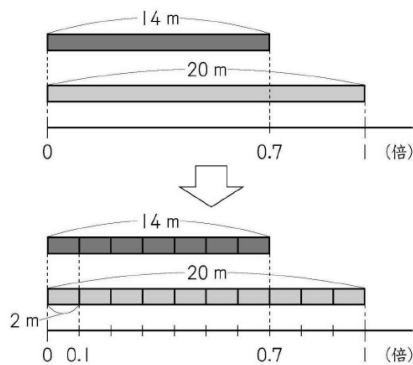


(3) 14 mのテープと20 mのテープがあります。
こはるさんたちは、14 mは20 mの何倍かについて考えています。

こはる $14 \div 20 = 0.7$ で、0.7 倍です。0.7 倍というのは、20 mを1としたとき、14 mが0.7にあたることを表していましたね。

れんと 20 mを1としたとき、14 mが本当に0.7にあたるのかな。

れんとさんの話を聞いて、ゆうまさんは、20 mを1としたときに14 mが0.7にあたるわけについて、20 mを10等分した1つ分の長さが0.1にあたることをもとにして考え、下のように図をかくて説明しました。



【ゆうまさんの説明】

ゆうま 20 mを1としたとき、0.1にあたる長さは2 mです。
14 mは、2 mの7つ分になるので、20 mを1としたときの0.7にあたります。

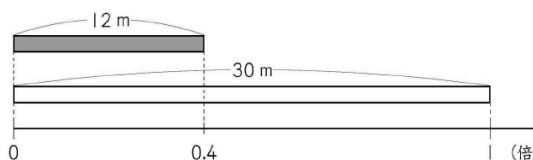
12 mのテープと30 mのテープもあります。
たくみさんたちは、12 mは30 mの何倍かについて考えています。

たくみ $12 \div 30 = 0.4$ で、0.4 倍です。

さくら 30 mを1としたとき、12 mが本当に0.4にあたるのかな。

30 mを1としたときに12 mが0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



正答

30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3mです。
12mは、3mの4つ分になるので、30mを1としたときの0.4にあたります。

正答率 32.9%

無解答率 8.2%

測定

この領域の問題は3問で、正答率は全国よりやや低い結果でした。二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する、思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかになりました。一方で「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる」問題の知識・技能においては、正答率は全国よりやや高い結果となり、着実に力をつけていることが判明しています。無回答率は、全国とほぼ同様（上位）でした。

図形

この領域の問題は3問で、正答率は全国より相当低い結果でした。特に、下の「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」問題では、三角形の面積を求める公式について理解が不十分で、示された全ての辺の長さで立式するなど、必要な情報を選び出すのに課題があることが明らかになりました。一方、無回答率は、全国を下回り、粘り強く問題に取り組もうとする子どもが増えている状況が見られました。

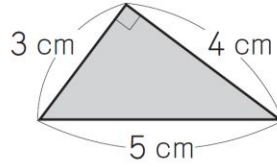


図1

正答 $3 \times 4 \div 2$

正答率 32.9%
無解答率 8.2%

- (1) 図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。
求める式と答えを書きましょう。

変化と関係

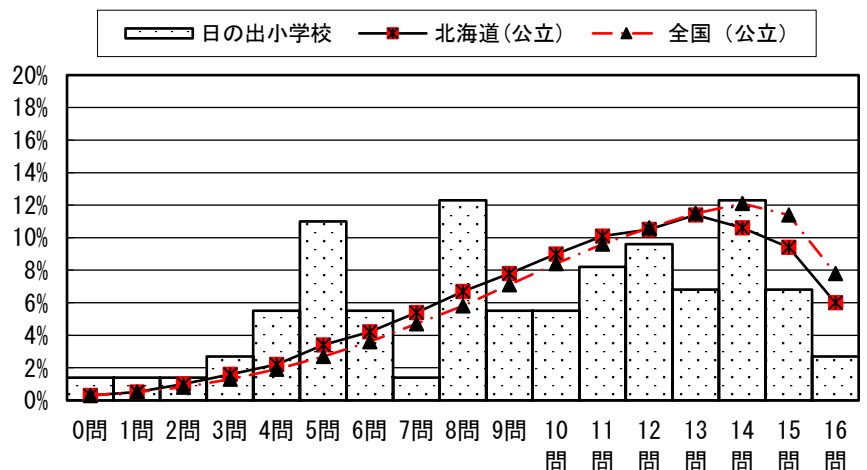
この領域の問題は3問で、どの問題も正答率は全国より相当低い結果でした。特に、「速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかをみる」問題では、正しい式を導き出す知識・技能に課題があることが明らかになりました。一方、無回答率は、全国を下回り、粘り強く問題に取り組もうとする子どもが増えている状況が見られました。

データの活用

この領域の問題は5問で、どの問題も正答率は全国より相当低い結果でした。特に、「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断できるかどうかをみる」問題では、情報を正しく選ぶための、思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかになりました。無回答率は、全国とほぼ同様でした。

②正答数の分布

正答数が8問以下の児童の割合がほとどの正答数でも全国より高くなっています。一方、正答数が9問以上の児童の割合は、全国を下回っており、いわゆる下位層が多く上位層が少ない状況が見られます。



【今後の学校における指導】

◆算数「習熟度別学習」の充実

→授業前半「全員で学ぶ」 後半「分けて定着させる」指導を徹底し、確かな知識・技能を育みます

◆「日の出タイム」を活用し、苦手としている学習内容を習熟

→本調査やNRT学力検査等の結果分析から判明した課題を、「日の出タイム」で確実に習熟させます。

◆「ほっかいどうチャレンジテスト」の積極的な活用

→チャレンジテストの問題を朝学習や宿題等で活用し、苦手な領域の資質能力を育成します。

- 「算数が好き」「どちらかというが好き」と回答した児童が全国より相当高くなりました。算数に関する意欲が高いことがわかります。
- 学校に行くのが楽しいかについて「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が、全国と同様となっています。学校生活に満足している様子が見られます。
- ▲スマートフォン等の約束を守れていない児童が全国より相当高くなっています。また、アウトメディアに触れる時間が2時間以上の児童と、4時間以上の児童が全国より相当高くなっています。メディアリテラシーの育成が喫緊の課題となっています。
- ▲平日1時間以上学習する児童や、3時間以上学習する児童が全国より相当低くなっています。また、土日についても同様の傾向が見られます。

【今後の学校における指導】

- ◆情報モラルの定着，生活習慣の意識化
→防犯教室や生活リズムチェック週間等の取組を通して，情報モラルの定着を図ったり，自ら自分の生活習慣を改善しようとしたりする意識付けを行っていきます。
- ◆家庭での学習習慣の確立
→家庭学習の手引きの活用や，日々の宿題・家庭学習の取組を生活リズムチェック週間等と関連付けながら，家庭での学習意欲の向上と，確実な習慣化を図って参ります。

御家庭での声かけが大きな力となります。御協力お願いいたします。